

自立活動部だより

天王みどり学園自立活動部
発行日 2017. 9. 8 No. 1

自立活動の充実を図るために、外部専門家の支援が行われています。学習を進める際に疑問に思っていることを外部専門家から支援されることで、これまで以上に子どもたちの一つの動きの大事さがわかってきたのではないかと思います。支援されたことをどのように子どもたちの指導に生かしていくのか、例えば、制作活動に入るときに子どもの手は、腕は、身体はその活動に向かっているのでしょうか。絵筆や鉛筆をもたせる前にはすることはないでしょうか。上手に話すためにすることはないでしょうか。一つ一つの動作を確認し、適切な指導をすることで確実に成果があらわれてきます。子どもたちの身体の状態や気持ちをしっかり受け止めて学習を進めていきたいと考えます。2学期も外部専門家による支援が続きますので、是非、活用してください。

外部専門家による支援のポイント

高橋 OT

Q スプーンを持ち方、握り方、すくい方について

A スプーンやフォーク、箸等の道具を使って食べるようになるためには、手食ベ→スプーン・フォークの握り→箸の順で発達する。また、子どもは指先で食べ物をつかみ、その食べ物を指先や手や腕全体を使って口に運び、口元で食物を離す動作を知っていく。さらに、一口で食べられる量はどのくらいか、食べ物の大きさや硬さを子ども自らの手や唇・歯で感じ知っていく。手の使い方については、食事場面だけではなく、手の発達に合った遊びや手の操作性を高める学習を積み重ねながら進めていくことが大事である。

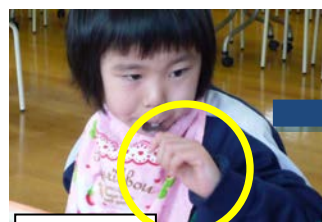
おゆまるくんで作った
ピストル型のスプーン



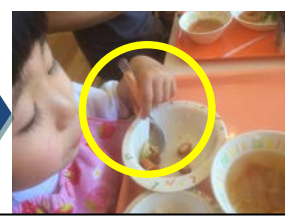
那波 PT

Q ピン倒しに出場するが、ボールの投げ方について

A 全体的にボールの勢い、投げ方が弱い。ボールを強く投げるためには、後方または、横に手を引いて、前方への振りのスピードをアップさせることが大事である。そのためには、教師が生徒の腕を誘導して、手の位置や腕の振りを確認しながら指導する。練習を積み重ねるとボールに勢いがつき、奥のピンまで倒すことができる。



回内握り



3指握り（鉛筆握り）

佐藤 ST

Q 声の大きさ（小さい声で話すことが多い）について

A 話すときに、語頭と語尾を意識して大きく話したり、声の大きさをイメージしてから話したりする。また、息を大きく吐いて吸って（深呼吸）から話すようにする。

Q 食べ物のかみ方について

A スプーンを垂直に入れないと食べこぼしが多くなる。正しい使い方ができるように、スプーンを垂直に入れるようにする。また、顔を起こし、前歯でかみ切り、奥歯で咀嚼するように促す。

支援や事例報告を通して、子どもたちの力を最大限引き出すための環境作り、教材教具の製作・活用やポジショニング、発声等について支援してもらいました。子どもたちの周囲の環境を細部にわたって、一つ一つ整えていくことで、子どもたちの力は高まるということを理解することができました。外部専門家による支援のポイントを押さえながら普通の授業の中に生かすことができるようにしたいと思います。

